

おおひらひがししょうがっこう

大平東小学校



あんしょうしぶんしゅう

暗唱詩文集

何度も音読したり暗唱したりすることで豊かな「ことば」を育みます。

名前

名前

すべて合格した人には賞状を授与します。

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
論語 ろんご	方丈記 ほうじょうき	春暁 しゅんぎょう	平家物語 へいけものがたり	枕草子 まくらのそうし	春の七草 はるななくさ	月の異名 つきいみょう	十二支 じゅうにし
<input type="checkbox"/>							
⑯	⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨
おくの細道 ほそみち	小景異情 しょうけいいじょう	山のあなた やま	黄金虫 こがねむし	初恋 はつこい	偶成 ぐうせい	徒然草 つれづれぐさ	竹取物語 たけとりものがたり
<input type="checkbox"/>							

順番に関係なく、気に入った詩文から音読したり
暗唱したりしましょう。
スラスラと暗唱できたら合格です。

①

基礎

十二支

十二支
じゅうにし

子 ね

丑 うし

寅 とら

卯 う

辰 たつ

巳 み

午 うま

未 ひつじ

申 さる

酉 とり

酉 いぬ

戌 い

亥 い



合格印

子	(ネ)	鼠	(ねずみ)
丑	(ウシ)	牛	(うし)
寅	(トラ)	虎	(とら)
卯	(ウ)	兔	(うさぎ)
辰	(タツ)	龙	(たつ)
巳	(ミ)	蛇	(へび)
午	(ウマ)	马	(うま)
未	(ヒツジ)	羊	(ひつじ)
申	(サル)	猿	(さる)
酉	(トリ)	鶏	(とり)
戌	(イヌ)	犬	(いぬ)
亥	(イ)	猪	(いのしし)

② 基礎 月の異名

つき いみょう
月の異名

むつき
睦月

きさらぎ
如月

やよい
弥生

うづき
卯月

さつき
皐月

みなづき
水無月

ふみづき
文月

はづき
葉月

ながつき
長月

かんなづき
神無月

しもつき
霜月

しわす
師走

月の異名・・・昔の月の言い方

睦月	・	・	・	一月
如月	・	・	・	二月
弥生	・	・	・	三月
卯月	・	・	・	四月
皐月	・	・	・	五月
水無月	・	・	・	六月
文月	・	・	・	七月
葉月	・	・	・	八月
長月	・	・	・	九月
神無月	・	・	・	十月
霜月	・	・	・	十一月
師走	・	・	・	十二月

合格印

③ 基礎 春の七草

春の七草
はる ななくさ

せり なずな

バギょう はこべら ほとけのぎ

すずな すずしろ

これぞ 七草
ななくさ



七草がゆ



すずな
(カブ)



すずしろ
(ダイコン)

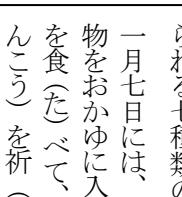
合 格 印



せり



なずな



はこべら
(ハコベ)



ほとけのぎ



バギょう
(ハハコグサ)

春の七草とは、春の早いころに見られる七種類の植物のこと。
一月七日には、これら七種類の植物をおかゆに入れた「七草がゆ」を食べ(たべて、一年間の健康(けんこう)を祈(いの)ります。

④ 古文 枕草子 清少納言

まくらのそうし

枕草子

せいしょうなごん

清少納言

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、
すこしあかりて、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、

螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、
ほのかにうちひかりて行くもをかし。

雨など降るものかし。

合格印

春は夜明けが良い。
だんだん白んでゆく
山際が、少し明るくな
つて、紫がかった雲
が細くなびいているの
が良い。

夏は夜が良い。月の
あるころは言うまでも
ない。闇もやはり螢が
たくさん飛び交つてい
るのが良い。また、た
だ、一つ二つなど、かす
かに光つて飛んでいく
のも面白い。雨などが
降るのも面白い。

⑤ 古文 平家物語

へ い け も の が た り

平家物語

さくしや ふしよ

作者不詳 (だれが書いたか分からぬ)

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。

しゃら そうじゆ

はな いろ

じょうしや ひつすい

ことわり

娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。

ひと ひさ

ただはる よ

ゆめ

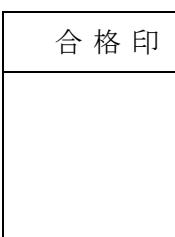
おごれる人も久しうからず、唯春の夜の夢のごとし。

もの つい

ひとえ かぜ まえ ちり おな

者も、その栄えはずつとは続かず、春の夜の夢のようにはかないものである。

勢い盛んではげしい者も、結局は滅び去り、まるで風に吹き飛ばされる塵と同じようである。



祇園精舎の鐘の音には、諸行無常すなわちこの世のすべてのこととは絶えず変化していくものだという響きがある。

沙羅双樹の花の色は、どんなに勢いが盛んな者も必ず衰えるものであるという道理を

あらわしている。

世に栄え得意になつてゐる者も、その栄えはずつとは続かず、春の夜の夢のようにはかないものである。

⑥

漢文

春曉

孟浩然

しゅんぎょう

春曉

孟浩然

もうこうねん

しゅんみん

あかつき

おぼ

春眠

曉を覚えず

しょしょ

ていちょう

き

处处に啼鳥を聞く

やらい

ふうう

こえ

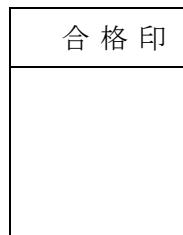
夜來

風雨の声

はなお

し
たしょう

花落つること知んぬ多少ぞ



春の眠りは朝が来たことに気付かないほど心地よ
く寝過ごしてしまつ。

春、あたたかな蒲団の中でふと目を覚ました。

もう部屋の中は、明るい日差しでいっぱいだ。

「ああ、気持ちいい。もう少しこのまま、こうして横になつていていいなあ・・・」

耳には、鳥のさえずる声が近く、遠く響いてくる。

きつと外は、緑に満ちあふれている。

「そう言えば昨日の夜は、ものすごい雨と風だつたつけ・・・。通り過ぎてしまえば、まるでうそみたいだけどうとうとしながら考えているうちに、ふとはつとした。

「そう言えば、嵐で、あんなに咲いていた花も散つてしまつたのかな。どれくらいちつたのかな」

そう思いながら、また眠りに引き込まれていく。季節はいつしか、春の終わり。そして、こんなに気持ちいい眠り、他にない。

⑦ 古文 方丈記 鴨長明

ほうじょうき

方丈記

かものちょうめい

鴨長明

ゆく河の流れは絶えずして、
しかも、もとの水にあらず。
淀みに浮ぶたかたは、
かつ消えかつ結びて、
久しくどまりたる例なし。
世中にある人と栖と、またかくのことし。

合格印

川の水は絶えることなく流れ
元の水のままではない、淀みに浮か
ぶ水の泡も消えたり結んだりで、同
じ状態にはない。世の人と住まい
もののようなものだ。

8 漢文 論語 孔子

論語

孔子

中国では「子」は先生という意味
なので、孔子は孔先生といふこと。
こうし こうせんせい

孔先生は言う。
こうせんせい
い

繰り返し学び、 かえまな

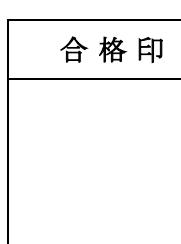
友達と学問について話す

人から評価されずとも怒らないの

が学ぶ者の姿だ。 まな もの すがた

10 of 10

合 格 印



⑨ 竹取物語

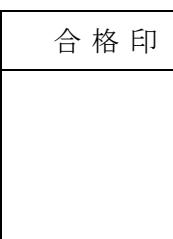
たけとりものがたり

竹取物語

さくしやふしょう
作者不詳（だれが書いたか分からぬ）

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつ
つ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。怪しがりて、寄りて見
るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつ
くしうてゐたり。

今はもう昔のことになるが、竹取の翁と言う者がいた。野や山に分け入つて竹を取り竹を取
りしては、いろいろな物を作るのに使つていた。名をさぬきの造といつた。（いつも取る）竹の
中に、根元が光る竹が一本あつた。不思議に思つて近寄つてみると、筒の中が光つてゐる。そ
れを見ると、三寸ばかりの人が、とてもかわいらしい姿で座つてゐる。



寸：約3.03センチメートル

⑩

徒然草

つれづれぐさ

徒然草

よしだけんこう

吉田兼好

つれづれなるまゝに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしな
し事を、そこはかとなく書きつければ、あやしう、そものぐるほしけれ。

これは、暇にまかせて一日中机の前にいるときに心に浮かんだことを適当に書きとめておいたもの
である。したがつて、実にくだらない馬鹿馬鹿しいものである。

合 格 印

⑪

漢文

偶成

朱熹

ぐうせい

しゅき

偶成

朱熹

しょうねんお

やす がくな がた

少年老い易く学成り難し

いっしん こういんから

一寸の光陰軽んずべからず

いま

さ

ちとうしゅんそう

ゆめ

未だ覚めず池塘春草の夢

かいせん

ごよう

しゅうせい

階前の梧葉すでに秋声

年はすぐにとつてしまふも

のだが、学問はなかなか成しと
げることができない。だから、

わずかな時間でもまだにして
はならない。池のそばに芽を出

した春の草が夢を見ているう
ちに、いつのまにか庭先の

青桐の葉には、秋風がしのびよ
つていて。そのように、月日は

あつという間に過ぎ去つてしまふものである。

合 格 印

⑫ 現代文

初恋

島崎藤村

はつこい

しまざきとうそん

まだあげ初めし前髪の

林檎のもとに見えしとき

前にさしたる花櫛の

花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて

林檎をわれにあたへしは

薄紅の秋の実に

人こひ初めしはじめなり

少女との清らかで初々しい初恋を七五
調のリズムでうたつたもの。

少女との出会い、恋の芽生え、恋の
成就、回想の四部構成になつてゐる。

まだあげ初めし前髪の・・・お下げ髪を日
本髪に結いませめた、その髪が。

林檎のもと・・・林檎の木の下に。

花櫛・・・造花でかざつた櫛。

花ある君・・・花のようく美しい君。

あたえしは・・・与えたことは。

人こひ初めし・・・人をはじめて恋しく思
つた。

合格印

わがこころなきためいきの

かみ け

その髪の毛にかかるとき

こい さかずき

たのしき恋の盃を

きみ なやけ く

君が情に酌みしかな

このへなきためいきの……思い余
つてもうす恋のためいき
おのづからなる……自然にできた。
かたみ・・・記念。
問ひたまふ……お聞きになる。

りんごばたけ こ した

林檎畠の樹の下に

ほそみち

おのづからなる細道は

た ふ

誰が踏みそめしかたみぞと

とい もう い

問ひたまふこそこひしけれ

合格印

⑬

現代文

黄金虫 野口雨情

こがねむし

黄金虫

のぐちうじょう

野口雨情

こがねむし
黄金虫は、

かねも
金持ちだ。

かねぐらた
金蔵建てた、

くらた
蔵建てた。

あめや みずあめ
飴屋で水飴、

か き
買つて来た。

こがねむし

黄金虫は、

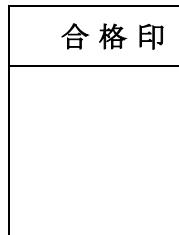
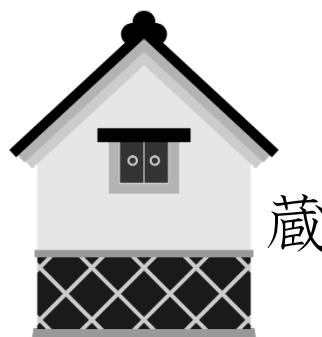
かねも
金持ちだ。

かねぐらた
金蔵建てた、

くらた
蔵建てた

こども みずあめ
子供に水飴、

なめさせた。



⑯

現代文

山のあなた　　カール・ブッセ

やま

山のあなた

カール・ブッセ

上田 敏 訳

やま

山のあなたの空遠く

そらとお

さいわい

す

ひと

う

「幸」住むと人のいふ。

ああ

噫、われひとと尋めゆきて、

なみだ

涙さしぐみかへりきぬ。

やま

山のあなたになほ遠く

さいわい

す

「幸」住むと人のいふ。

さいわい

す

う

山のかなたの果てしない遠くに、
山のあなたは
幸せがあると人が言う。

私もみんなと一緒に行って、その幸せをさがし求め続けてきた。でも、幸せは見つからなかつた。そして、涙のあふれた目のまま帰つてきた。

それはとても悲しいことだつたけれど、でも、幸せがないというわけではない。山のかなた遠く遠く向こうに幸せがあると人が言う。

どこかに――、どこかに、きっとあるんだよ。

合格印

⑯ 現代文 小景異情 室生犀星

しょうけいいじょう

むろうさいせい

故郷とは、遠くにいて思い出すものである。
そして悲しくうたうものである。
たとえ、

小景異情

室生犀星

とお

おもう

ふるさとは遠きにありて思ふもの

かな

そして悲しくうたふもの

よしや

いど

かたい

うらぶれて異土の乞食となるとでも

かえ

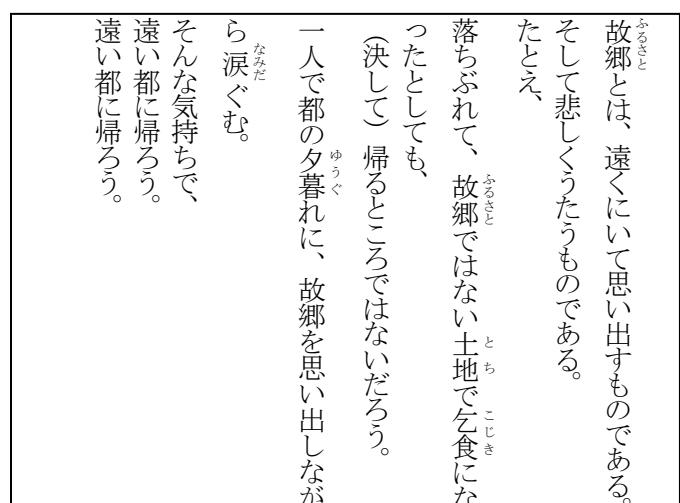
帰るところにあるまじや

落ちぶれて、故郷ではない土地で乞食にな
つたとしても、
(決して)帰るところではないだろう。

一人で都の夕暮れに、故郷を思い出しながら
一人で都の夕暮れに、故郷を思い出しながら

ら涙ぐむ。

そんな気持ちで、
遠い都に帰ろう。
遠い都に帰ろう。



ひとり 都 の ゆふぐれに
みやこ う
ふるさとおもひ 涙ぐむ
いなみだ
そのこころもて
とお
遠きみやこにかへらばや
とお
え
遠きみやこにかへらばや

合 格 印

⑯ 古文 おくの細道 松尾芭蕉

おくの細道

松尾芭蕉

ほそみち

まつおばしょう

つきひ はくたい かかく

ゆき うとし またたびびとなり

たびびと

旅人のようなものであり、来ては去り、

さ

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。

ゆき うとし またたびびとなり

である。船頭として船の上に生涯をう

かべ、馬子として馬のくつわを引いて老

舟の上に生涯をうかべ、

う もの

馬の口とらへて老いをむかふる物は、

う もの

日々旅にして、旅を栖とす。

すみか

古人も多く旅に死せるあり。

合格印

月日というものは、永遠に旅を続ける
旅人のようなものであり、来ては去り、
去つては来る年もまた同じように旅人
である。船頭として船の上に生涯をう
かべ、馬子として馬のくつわを引いて老
いを迎える者は、毎日旅をして旅をすみ
かとしているようなものである。昔の人
のなかには、旅の途中で命を落とす人が
多くいる。

あんしょうしぶんしゅう
「暗唱詩文集2」の目次
 もくじ

- 17 雪 ゆき □
- 18 古今和歌集より こきんわかしじゅう □
- 19 春望 しゅんぼう □
- 20 弁天娘女男白波 べんてんむすめめおのしらなみ □
- 21 曾根崎心中 そねざきしんじゅう □
- 22 松尾芭蕉の俳句 まつおばしょう はいく □
- 23 寿限無じゅげむ □
- 24 石川啄木「一握の砂」 いしかわたくぼく いちあく すな □
- 25 学問のすゝめ がくもん □
- 26 吾輩は猫である わがはい ねこ □
- 27 坊ちゃん・草枕 ぼつ くさまくら □
- 28 蜘蛛の糸・鼻・羅生門 くも いと はな らしょうもん □
- 29 走れメロス はし □
- 30 静夜思 せいやし □